



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

「退任のごあいさつ」

歯科麻酔科 科長 吉村 節

私は、昭和52年(1977年)に昭和大学歯学部が創設され同時に開院した歯科病院に、歯科麻酔科医として赴任しました。以来34年間、歯科病院とともに歩んできましたが、本年3月で定年を迎えました。本当に長い間皆さまにお世話になりました。

34年の間に、社会情勢はもちろん歯科界や歯科病院を取り巻く環境は大きく変化しました。社会は成熟し、高齢化社会からさらに世界に類をみない超高齢社会になりました。このことは私どもから見ると、歯科病院を受診される患者さんの、全身的な疾患をお持ちになる割合が高くなったことを意味します。

いつまでも口腔を健康に保つことが、ご自分の身体に健康に直結するということが認識されるようになり、さらに口腔インプラントも治療法として定着してきました。またアメニティーを求める社会になり、歯科治療を安全・快適に受けたいという患者さんの要望がとて増えています。

歯科病院を受診される患者さんに対し、どのような配慮をすればより安全に治療が行えかつ満足していただけるかを、病院長を中心にスタッフ全員で心がけてまいりました。われわれ『歯科麻酔科医』は全身管理のスペシャリストです。歯科治療を『痛くなく、安全に、気分よく受けていただくため』に、歯科麻酔科医は担当の先生の治療に参加して鎮静法を中心に種々のサービスを行なっています。

麻酔科は手術室での麻酔管理が主な仕事ですが、平成11年から、外来においても積極的に歯科診療のお手伝いを始めました。(表1)

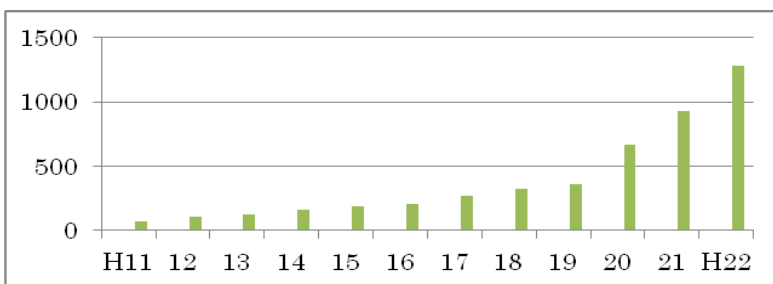


表1 外来鎮静症例の推移

具体的には、歯科治療の際に何らかの配慮が必要であると思われる患者さんに対して、担当の先生と相談し、鎮静法を駆使して各科外来診療室に出向いて安全・快適性の面から最も適した治療環境を提供致します。

このシステムが浸透するまで時間がかかりましたが、近年依頼が増えて平成22年には年間1,200症例以上を行うようになりました。

歯科治療が怖い、緊張する、口の中の注射が怖い、嘔吐反射、治療中に気分が悪くなった経験がある、体調に自信が持てない、身体が動いて治療ができない、口腔インプラント手術を楽に受けたいなど、歯科治療に対して不安・お悩みやご要望があれば『昭和大学歯科病院の麻酔科』あるいは担当の先生にお気軽にご相談ください。

私が在籍した34年間に、歯科病院で麻酔科が管理した症例は、総計20,743症例になります。(表2) この間、大過なく仕事を全うできたことをすべての方々に感謝致します。



手術室	全身麻酔	9436症例
	鎮静法	6695症例
各診療科	外来鎮静 (平成11年から)	4612症例
【総計】		20743症例

表2 34年間の麻酔科管理症例

4月以降、新たな科長のもとで、麻酔科が歯科病院のお助けマンとして、安全管理の核としてますます活躍してくれることを期待します。

「東北関東大震災の災害医療に参加して」

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

3月19日から24日まで昭和大学医療救援隊の第2次派遣隊の一員として岩手県山田町(やまだまち)の医療活動に参加しました。歯科病院からは私と栄養士の高橋さんのダブル高橋が加わりました。テレビ報道で繰り返し報告されているように津波による破壊は筆舌に尽くしがたく町の主要部位は瓦礫の山となっていました。(写真1)



写真1 航空写真 県立山田病院は昭和大学医療救援隊の本拠地としてご厚意で間借りさせて頂いている病院です。南小学校では町の行政と学校に交渉し、常駐の歯科診療室(診療場所)を開設させて頂きました。北小学校では訪問歯科診療を行い、南小学校周辺の3か所の避難所、北小学校の避難所1か所、織笠地区周辺の2か所の避難所の計6か所で後述する講演活動を行いました。(薬学部 木内教授より)

岩手県山田町へは山形県庄内まで空路で行き、そこから陸路八時間くらいで到着しました。陸路ではガソリンスタンドは閉店がほとんどで、開いている場合でも数時間待つ程混んでいて緊急車両だけが使用を許されている高速の給油所を使って何とか現地に辿り着きました。壊滅した街並みと漁村はただただ驚くばかりでしたが、自衛隊、地元の方の驚異的な協同作業により道路だけは通れるようになっていたのは復興へ向けての力強さを同時に感じる事ができました。

災害医療チームとして国立病院機構、日赤岡山、日赤和歌山、日赤徳島、陸上自衛隊、和歌山県立医大、昭和大学などがこの山田町地区に入っていました。各医療チームの医師数は2名程度とコメディカルが同数程度で歯科医師はいなく、昭和大学は医療者数が圧倒的に多く(医師6名、歯科医師1名、そのほかコメディカルは学生含め10名および栄養士1名)、山田町の医療戦略の中核となって積極的に救援医療を展開しました。昭和大学は4チーム(歯科は私の単独チーム)に別れ、拠点としている県立山田病院を含め

山田地区避難所35箇所のうち11か所の避難所の医療を担当しました。

ちなみに宿泊と医科の診療基地にさせて頂いている県立山田病院は電気、水、ガスなどのライフラインが復旧していないので診療中のみ自家発電で対応しました。私は町の行政と学校に交渉し、歯科診療室を電気が復旧していた山田南小学校に開設し(途中、水道も復旧しました。)、そのほかのライフラインのない避難所での訪問診療においては懐中電灯がまさに患者さんのお口の中と私の目、手指をつなぐライフラインとして大活躍をしました。(写真2)また、山田町地区の5件の歯科医院は津波で崩壊という大被害を受けましたが、歯科医師はご無事で地元歯科と連携診療を進める準備を行いました。



写真2 避難所での訪問診療

連日5時半起床、昭和大学チームとしての診療ミーティングなどが終わるのは午後10時半ごろというスケジュールで、訪問診療活動は

朝7時半頃から始めました。

避難所においては限られた栄養や水、狭い居住空間と睡眠環境、被災当初の一週間程度は歯ブラシがなかった、疲労とストレスによる免疫能の低下などからとくに高齢者には歯周病の悪化や誤嚥性肺炎の予防のために口腔ケアと摂食・嚥下機能訓練の強力な啓蒙活動が必要と考え、6か所の避難所においてトレーニングの実施を含む1時間弱程度の講演活動を行いました(写真3)。本活動については一階の待合所のテレビモニターで放映する予定です。

被災救援活動を通じ感じたことは自分が何をできるかを考えながら、特に首都圏では電気を中心に省エネを行いつつも、決して萎縮することなくむしろ活発に行動し、第2次大戦や数多くの震災後、奇跡の復興を示したお家芸をまた世界に向け発信すべく日本人同胞の一人として積極的に活動して行きたいと思えます。



写真3 講演活動

春寒も緩みはじめ、1日ごとに暖かさが増してくるこの頃です。卒業式や入学式といったイベントで写真撮る機会も増えると思います。心から笑っている笑顔はとても素敵ですよ。しかし、口の周りのコンプレックスがあると、口を開けて笑うことに不安を持つ方がいらっしゃいます。我々美容歯科では、笑顔に自信を持てるようにお手伝いできればと考えております。

「前歯を白く綺麗な歯並びにしたい」このような希望を持たれる方がいらっしゃいます。でも、歯を削ってかぶせ物には抵抗があるし、矯正治療もホワイトニングは時間や手間がかかる。このような悩みを解消できるひとつの方法として、「ラミネートベニア法」という方法があります。

ラミネートベニア法とは、簡単に言えば、歯の表面を一層削って、「つけ爪のような形の薄いセラミックを貼り付けること」です。セラミックを貼り付けるの

で、色が自由に選べること、半永久に変色がないこと、歯を削る量がすくないことが利点です。すきっ歯や多少であれば曲がっている歯の形を変えることもできます。注意すべきことは、外傷や食事による破折や脱離の危険性です。また、加齢などにより口腔内環境は径時的に変化しますが、セラミック自体は変化がないので調和がみだれることもあります。

近年、先天性の前歯の形の異常や歯並びの異常によりできてしまったすき間を、歯をまったく削ることなく改善できるようになりました。これが「コンタクトラミネートベニア法」という最新の治療法です。

ラミネートベニアの治療期間は通常2回です。1回目は歯を一層削除し、色合わせと型取り、2回目にセラミックを歯に接着させて終了。もちろん、かみ合わせのチェックやメンテナンスは必要です。

歯並びやかみ合わせなど専門家による診査が必要ですので、ご興味がある方はご相談ください。

ラミネートベニア

治療前



治療後



コンタクトラミネートベニア

治療前



治療後



治療前



治療後



長年、昭和大学歯学部、歯科病院の発展のためにご尽力され本当に有難うございました。
歯科病院広報委員長 高橋浩二

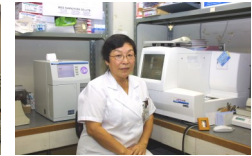
歯科保存学教室 伊藤和雄先生、歯科補綴学教室 新谷明幸先生がご定年による退職を迎えられました。私は昭和大学歯学部の一回生で先輩からの情報もなく、また歯学部歯学科というよりは歯学部体育科のような学生であったため、基礎実習、臨床実習ではおそらく歯学部生としては考えられる全ての失敗をやらかしましたが、お二人の先生には各科で連日夜遅くまで(11時ごろまで)懇切丁寧なご指導を賜り、歯科技術のイロハを教えてくださいました。本当にありがとうございました。

また看護部 関本公恵師長補佐、中央検査室 天谷恵子係長、中央放射線室 舟橋逸雄技師長も定年退職を迎えられました。私は卒業後第一口腔外科に入局し、大学院卒業後二年目には医局長を拝命し、まだまだ実力を伴わない口腔外科医として関本師長補佐には外来、病棟、手術室で多くの叱咤激励を受けながら成長させて頂きました。また天谷係長は弟さんが中学、高校のやはり体育系の偉大な先輩であったため、緊急な検査など相当便宜を図って頂きました。舟橋技師長には口腔リハビリテーション科では欠かせない嚥下造影検査で様々

な無理な願いを叶えて頂きました。本当にありがとうございました。皆様の今後のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。繰り返しになりますが本当にありがとうございました。



看護部
関本公恵師長補佐



中央検査室
天谷恵子係長

中央放射線室 技師長 舟橋 逸雄



私は平成2年から岡野教授の下、歯科放射線科で21年間お世話になりました。多くの皆様からご支援とご協力を頂きながらここまで来られましたこと、心からお礼申し上げます。間もなく、電子カルテ導入に続き画像データをデジタル化して各科に配信できるPACSシステムが導入されることと思います。これらを大いに活用して頂き、歯科病院が益々発展して頂ける事を祈願しております。長い間お世話になり、ありがとうございました。

歯科技工士研修生修了式が行われました

歯科技工士という医療系技術専門職17名が、歯科病院各科からの依頼を受けて義歯(入れ歯)や補綴物(差し歯・銀歯)などの製作・加工を行っています。多い時は1日100以上の患者さんのお口の型(印象)がきて、すこしでも美しくぴったり合う物を作るために頑張っています。最近、インプラントや美容歯科の技工が非常に増え、高度なコンピュータを用いたCAD/CAM技術も活用しています。また壊れた義歯をすぐにきれいに修理することも行っています。

14年前から新東京歯科技工士学校に専攻科が設置され、新人の歯科技工士の研修生を1年間、ベテランの歯科技工士がマンツーマンで指導しています。3月7日に、その専攻生7名の修了式がありました。これまでの修了生70数名は国内外で活躍

しています。丁寧に指導するため、時には、期間が長くなる場合もあり、患者さんにもご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、素晴らしい技工物を作るためですし、優れた歯科技工士を養成するためです。ご理解のほどよろしくお願いいたします。来年度も7名の研修生を受け入れる予定です。患者さんのお口によりマッチした歯を作るために、お口の中を見せていただくこともあるかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

(中央技工室長 佐藤 裕二)



編集後記

今回の大震災、日本人一丸となって復興させましょう。毎度発行が遅くなって申し訳ございません。(K.T)